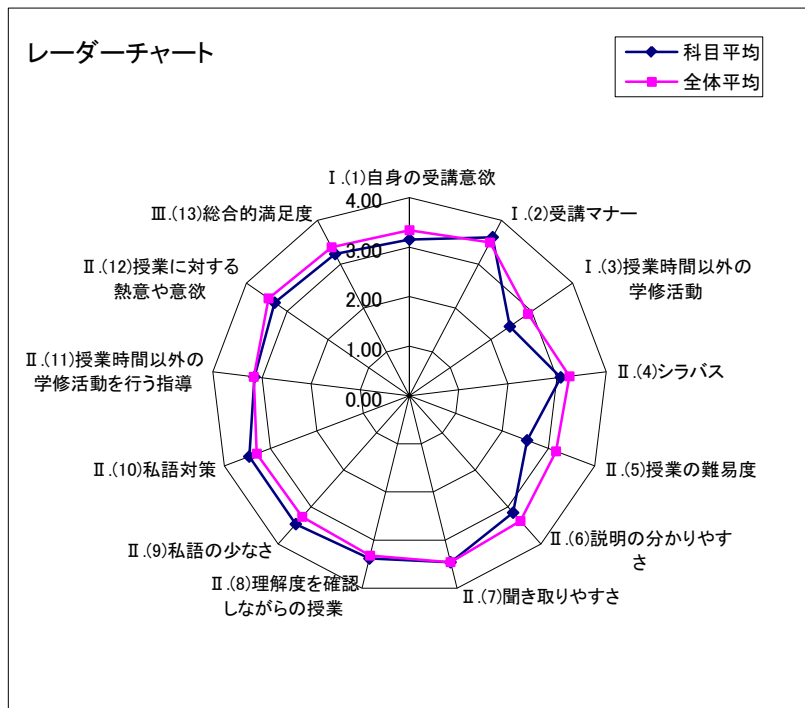
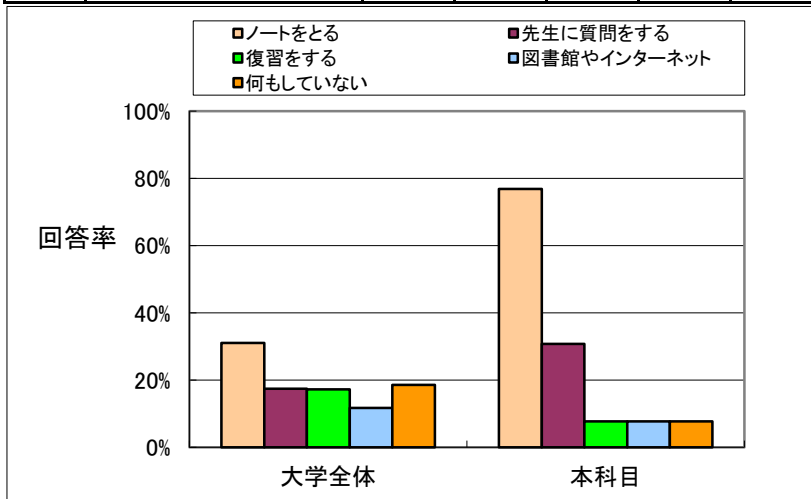


講義科目 授業アンケート結果



※レーダーチャートの平均は4段階評価 4(そう思う)、3(ややそう思う)、2(あまりそう思わない)、1(そう思わない)

＜※複数選択可項目＞	ノートをとる	先生に質問する	復習をする	図書館やインターネット	何もしていない
IV.(14) 授業を理解するための工夫	76.9	30.8	7.7	7.7	7.7



	設問No.	科目平均	全体平均
自身の受講姿勢	I.(1)	3.15	3.34
	I.(2)	3.62	3.49
	I.(3)	2.46	2.91
講義内容・方法	II.(4)	3.08	3.26
	II.(5)	2.54	3.16
	II.(6)	3.15	3.38
	II.(7)	3.46	3.46
	II.(8)	3.38	3.32
	II.(9)	3.46	3.27
	II.(10)	3.46	3.30
	II.(11)	3.15	3.17
	II.(12)	3.31	3.46
	総合評価	III.(13)	3.23

	本科目平均	全体平均
自身の受講姿勢	3.08	3.25
I.(1)～(3)		
講義内容・方法	3.22	3.31
II.(4)～(12)		
総合評価	3.23	3.39
III.(13)		

アンケート結果に対する教員のフィードバックシート

授業年度	2012年度 後期
時間割番号	1414
科目名	マクロ経済学Ⅱ/マクロ経済学
教員名	

①授業計画の達成度について

マクロ経済学Ⅱおよびマクロ経済学(後期)では、国民経済計算の直観的理解から45度線モデル、資産市場(債券市場)を考慮した貨幣需給分析を経てIS/LM模型へ至る前期の授業内容を前提としている。したがってIS/LM模型の復習とその応用そして経済成長論への導入を年度当初に計画していた。学生の反応を確かめつつ授業を行ったところ、あらたな手法が必要な経済成長論は手つかずに、IS/LM模型の開放体系への適用は手薄になった。それらの代替として、ニュースや新聞記事等のマクロ経済学関連の話題に言及することにした。ノート持込み可とした割には、試験の結果が芳しくなかった。この際、この科目に限らず、学生諸氏には、日頃のノート整理やノートの加筆の励行を強く薦めたい。

②授業の進め方について

板書中心で、必要な知識については、指定参考文献を入手するか、図書館で閲覧するようにアナウンスした。学生からは、ハンドアウトをリクエストするような声が聞こえたが、授業内で十分な復習と解説を行ったつもりで、その期待に応えていない。ハンドアウトを配布すればもう少し効率よく進められたかもわからない。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

公開授業でも指摘いただいたが、比較的少人数であったため時折対話を心掛けたが、小さい教室で行ったほうが、理解の定着を図り個々の学生の疑問点を吸い上げ、本授業科目への関心をより一層引き出すことができたかもしれない。マクロ経済学のコンテンツは制度化されており、紋切り型になりがちだが、時事問題との関連を紹介するよう一層務めることとしたい。これら諸点を踏まえ熱心な学生に対し親切で達成感のある授業を実施することにする。